

「9435 認定こども園」に係る  
ヒアリング状況

## 「9435 認定こども園」ヒアリング状況

ヒアリングを行った団体

特定非営利活動法人全国認定こども園協会

< 1. 業界の組織状況等について >

○団体の活動内容、構成員について

< 団体活動内容 >

会員同士の情報交換・意見交換

会員への各種情報提供

職員の資質の向上を図るための各種研修の実施

経営の健全化や教育・保育の質の充実などに資する調査研究の実施

認定こども園の普及・充実及び運営改善に資する事業

関係機関・団体との連携の推進

< 構成員 >

当協会の活動内容に賛同し、活動を推進する個人及び団体

(認定こども園でなくても入会可能)

○団体の組織状況、事業者の加入状況、団体としての規模及び今後の見通し

(会員事業者数、従業員数(年齢構成に特徴があればその点についても))

< 団体組織状況 >

会員数：正会員 1,392 (全国の認定こども園 6,160 (平成 30 年 4 月 1 日時点)のうち 20%強)、賛助会員 26 (多くは一般企業)。いくつかの自治体も会員として加入し、自治体内の園が参画。

なお、(会員に限らず)認定こども園は以下の 4 類型に区分されるところ、幼保連携型が多くを占める(数値はいずれも平成 30 年 4 月 1 日時点)。

・ 幼保連携型	4,409
・ 幼稚園型	966
・ 保育所型	720
・ 地方裁量型	65

都道府県別に見ると、大阪府(573)、兵庫県(463)、北海道(344)、青森県(260)、静岡県(247)の順となっており、東京都(129)が特に多いわけではない。

< 団体としての規模 >

法人理事：28 名(うち代表理事 1 名、副代表理事 7 名)

法人監事：2 名

全国を7地区（北海道、東北、関東、中部、近畿、中四国、九州）に分け活動を行う。支部は30道府県に設立している。

#### <今後の見通し>

創立10周年を迎え、近々の3年間は会員が年間に100以上増加しており、今後も増加傾向にある。長期計画では2,000園を目標に会員の増進に努めている。

#### <従業員数>

正職員：1名、派遣職員（常勤）1名、パート職員（非常勤）：1名

#### ○他の同業団体の状況

- ・認定こども園を称する全国規模の団体は、当協会を含め3団体存在する。（全国認定こども園連絡協議会、認定こども園連盟）。
- ・その他、幼稚園団体、保育所団体が存在し、各々に活動しているが、どちらの系統の団体の中にも「認定こども園委員会」等が設置され、同列の協議が行われている。
- ・認定こども園の認可は、既存の幼稚園、保育所からの移行が多く新設は少ないため、新たに認可を受けた園は、引き続き幼稚園、保育所の団体に属することも多い。

#### ○他の団体との協力等の関係（同業、他業ともに）

##### <同業>

上記の団体とは、事項によっては協同する場合がある。

また、子育て支援活動団体、国際NGO、日本財団とも協同し、子どもに関わるプロジェクトなどで要請があった場合、参加している。

また当協会が開催するシンポジウムなどに上記団体がパネリストとして参加するケースがある。

##### <他業>

「子ども」「認定こども園」などのキーワードによって協同できる場合はできる限り活動に参加している。

教育分野とも地続きとなるため、自治体によっては、教育委員会との接点も多くなる。また、団体間の連携ではないものの、園レベルでは小学校との連携が進んでいるところもある（年長クラスが小学校に進学する前に、進学先の小学校の5年生が園を訪れる、園児が小学校を訪れる等。また、運動会等の園の行事に、小学校の校長が列席することも多い）。

障害を持った園児を受け入れている園もあるため、園レベルでの児童福祉分野との連携もある。協会としても、国が主催する虐待防止の会議に参加。

## <2. 業界における作業態様等について>

### ○業界における作業態様（内容、工程、設備、分業・シフト体制等）

#### <内容>

- ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえて教育・保育を実施（幼稚園型は幼稚園教育要領、保育所型は保育所保育指針に基づくことが前提。）
- ・小学校における教育との円滑な接続
- ・認定こども園として特に配慮すべき事項を考慮（保育の要否や在園時間の異なる子どもが混在することを前提としつつ、可能な限りカリキュラムを共通化する等）

#### <設備>

- ・学校かつ児童福祉施設たる「単一の施設」としての幼保連携型認定こども園にふさわしい「単一の基準」とする。
- ・新たな幼保連携型認定こども園の質を確保し向上させる観点から、現行の幼保連携型認定こども園に適用されている基準を基礎とした上で、以下の方針で基準を策定する。（既存施設からの移行の特例がある）
- ・幼稚園と保育所の基準の内容が異なる事項は高い水準を引き継ぐ。
- ・幼稚園と保育所のいずれかのみ適用がある事項は、学校かつ児童福祉施設としての性格に鑑み、両者の実務に支障のない形で引き継ぐ。

#### <分業>

- ・園の業務の場合、ほとんどが保育に従事する職員であるが、負担軽減、効率化の観点から、事務職員の採用など保育の業務以外の部分において専従化を図っている。また、保育士不足の観点、高齢者活躍の機会確保の観点からシルバー人材センターなどと協力し、子どもに関わる業務以外の業務（掃除や給食補助など）に関わっていただくことを進めている園も多くある。

#### <シフト体制>

- ・園によって、自治体によってさまざまではあるが、基本的には3号認定（0-2歳で保育が必要な子ども）及び2号認定（3歳-就学前）は8-11時間の保育時間を提供し、1時間以上の延長保育を行っているため、12時間程度の開園時間となっている。そのため、シフト制や1年間の変形労働時間、1か月の変形労働時間制などを用いて、労働基準法を遵守しつつも、園運営に支障が出ないように、在園する子どもが多い時間帯に多くの職員が出勤できるように調整している。
- ・具体的には、朝の早い時間帯のみ／夕方の延長保育の時間帯のみ勤務する非常勤職員を配置する、土曜日開園するために平日に休みを設定する等の調整を行っている。また、給食の時間も子どもに付き添うため、昼休みをまとめてとることは困難となることから、交代で30分ずつ分割して休憩する等

の工夫をしている。

- ・なお、所定労働時間を丸ごと保育に充てるのではなく、各人が事務、保育記録、教材研究に充てる時間「ノーコンタクトタイム」を確保するようにしている。

#### ○従事者の主な職業構成（直接雇用、派遣、業務委託、ボランティア等）

各施設によってさまざまではあるが、ほとんどが直接雇用の常勤とパート職員で構成されている。施設によっては会計業務などを外部に業務委託しているケースもある。また、補充のために派遣社員を受け入れるケース、高齢者の方や学生などのボランティアなどを受け入れることも多くある。

幼稚園教諭と保育士とでは作業態様には大きな違いはなく、同じように子どもと関わっている。なお、認定こども園においては、8割の職員が幼稚園教諭・保育士、両方の資格を有している。

職員の95%は女性。

#### <3. 労働災害の発生状況について>

##### ○労働災害の発生状況（把握の有無、統計の所在、発生件数）

- ・当協会として統計等の整備は行っていない。

##### ○主な労働災害の種類（型、原因、発生に至る経緯）と、被災者の属性

- ・園児との接触（走ってぶつかってきて倒れた、抱きつかれて腰を痛めた等）
- ・園児を守るための身代わり（園児が転びそうになったので助けようと身代わりに転んだ、物が落ちてきそうだったのでかばってけがをした等）
- ・業務作業中の不注意（教材作成中に指を切る、準備作業中に骨折する、自然教材を得るために林に入り転ぶ等）
- ・送迎バスでの事故、プールでの事故等
- ・交通事故にあうケース、工事現場の落下事故などに巻き込まれる場合もある。
- ・園内で職員が食中毒になる場合もある。

##### <被災者の属性>

- ・保育に従事する職員

##### ○従業員以外の被災状況（派遣労働者、委託業者、ボランティア、顧客等が事業場内で被災する場合等）

- ・給食を外部業者に委託している場合  
やけど
- ・派遣労働者

保育に従事している職員と同様

- ・ ボランティア  
園児との接触等

○いわゆる「職業病」 的なものの有無

- ・ 腰痛（子どもを抱っこすること、子どもと視線をあわせるためにしゃがんで行う作業が多いことが原因）
- ・ うつ（職場内、保護者対応等が原因。対子どもが原因となることは考えにくい）。

< 4. 労働災害防止対策について >

○労働災害防止対策として取り組んでいること

- ・ 業界として取り組んでいること

<腰痛>

- ・ 抱きかかえ方の工夫
- ・ 腰痛ベルトの使用
- ・ 立ったり座ったりの作業軽減（ハイテーブルタイプの食卓テーブルで3歳未満児の食事をするなどの工夫）

<うつ>

- ・ メンター制を設けて、悩みなどを気軽に相談できる体制づくりに取り組んでいる（ただし小規模の園での導入には困難な面もある）。
- ・ 異業種間交流（保育士、調理員や看護師など）のグループを作成し、相談できる体制づくりに取り組んでいる。
- ・ 上司との関係性、同僚との関係性が良好になるよう交流をもたせるよう取り組んでいる。

- ・ 業界内の事業主が取り組んでいること（代表的な事例等）

<けが>

- ・ 注意喚起

<うつ>

- ・ 注意喚起
- ・ 園内研修
- ・ 業務災害保険の活用の周知（現状、認定こども園保険に加入している会員は2割程度）
- ・ 労務相談ホットライン
- ・ 24時間電話健康相談、介護相談ホットライン

- ・メンタルケアカウンセリングサービス
- ・「業務災害総合保障保険」オプションに加入することで業務以外の病気で入院しても対応する保険を用意し、職員の不安を少しでも解消し、健康経営を目指している。

#### ○労働災害防止対策の好事例

- ・園内研修にて園児のけがへの対応を行う一環として、職員の業務内のけがについて注意喚起を行い、園内で起こりうるケガへの対応を周知させる

#### ○業界として今後取り組む予定の（取り組みたい）労働災害防止対策

- ・業務災害保険内容の充実
- ・園内の関係性を良好にする研修会の提案
- ・事故・けが、メンタルヘルスに向けての研修会の開催
- ・事故・けが、メンタルヘルスに向けての講師派遣

#### ○業界内の事業主が行う労働災害防止対策を推進するため業界団体として取り組んでいること

- ・業務災害保険内容の充実
- ・事故・けが、メンタルヘルスに向けての講師派遣

### < 5. その他 >

昨今の少子化に伴い、幼稚園／保育所みの運営では入園者が減少し得るところ、認定こども園に移行することで、より多くの子どもを受け入れることが可能となることから、今後も認定こども園は増加していくとの見通し。

結果的に認定こども園への移行により、幼稚園の数は減少しているものの、保育所については、都心部を中心として待機児童解消のために増加傾向となっているため、認定こども園の増加が直ちに保育所数の減少にはつながらない。

認定こども園数（特に幼保連携型認定こども園数）は増加するものの、それに伴い労働災害が増加することはないとの認識。ただし対人関係のストレス等、精神的な疾患については、（当該業界に限らず社会全体として）申し出やすい環境になることに起因して、顕在化する件数は増加する可能性があるとの認識。

なお、「9433 幼稚園」、「9434 保育所」、「9435 認定こども園」を一体的・類似する保険集団としてとらえることには大きな違和感はない。一方、当協会の会員の内訳は、56%が社会福祉法人、43%が学校法人となっており、「9425 教育業」と「9432 社会福祉又は介護事業」どちらの保険集団とも一定の類似性があるともいえるため、これらのうち片方の集団と統合するのは現実的ではないとの認識。

## ヒアリングのまとめ

労災保険率適用事業細目「9435 認定こども園」に対応する主な日本標準産業分類は以下のとおりとなっている。

- ・ 8111 幼稚園
- ・ 8191 幼保連携型認定こども園
- ・ 8531 保育所

今回ヒアリングに協力いただいた「特定非営利活動法人全国認定こども園協会」は、認定こども園の多数を占める「8191 幼保連携型認定こども園」を代表する団体の一つである（会員数は最も多い）。なお、全国規模の団体が他に2団体存在する。

### <業界の組織状況等>

全国の認定こども園 6,160 のうち 20%以上が当該団体に加盟。会員の 56% が社会福祉法人、43%が学校法人系列。認定こども園、会員ともに増加傾向。

既存の幼稚園、保育所が認定こども園に移行することが多く、それらの園は幼稚園団体、保育所団体に加入し続けることも多い。幼稚園団体、保育所団体においても「認定こども園委員会」等が設置されている。

教育分野とも地続きとなるため、自治体によっては教育委員会との接点も多くなる。個々の園レベルでは小学校との連携も緊密。障害を有する園児を受け入れる園もあり、園レベルで児童福祉分野との連携もある。認定こども園に関わる主体は多岐に亘る。

### <作業態様>

約 8 割の職員が幼稚園教諭と保育士、両方の資格を有して保育に従事。職員の約 95%が女性。保育に従事する職員が殆どを占める中、保育以外の業務領域における専従職員の雇用や外部委託の活用により分業化を図っている。

シフト制や変形労働時間制、朝の早い時間帯や延長保育の時間のみ勤務する非常勤職員を配置する等、在園する子どもが多い時間帯に多くの職員を配置。

### <労働災害の種類及びその対策>

- ・ 園児との接触、身代わりによる怪我・転倒、腰痛。
- ・ 教材作成時、送迎時の事故。
- ・ うつ（職場内、保護者対応に起因。対子どもに起因するものは稀）。
- ・ 抱きかかえ方の工夫や腰痛ベルトの活用。
- ・ 園児の怪我への対応周知と併せて労働災害に係る注意喚起。
- ・ 規模の大きな園ではメンター制も活用。小規模園への導入方法を模索。